

平成30年度
全国学力・学習状況調査の結果と分析

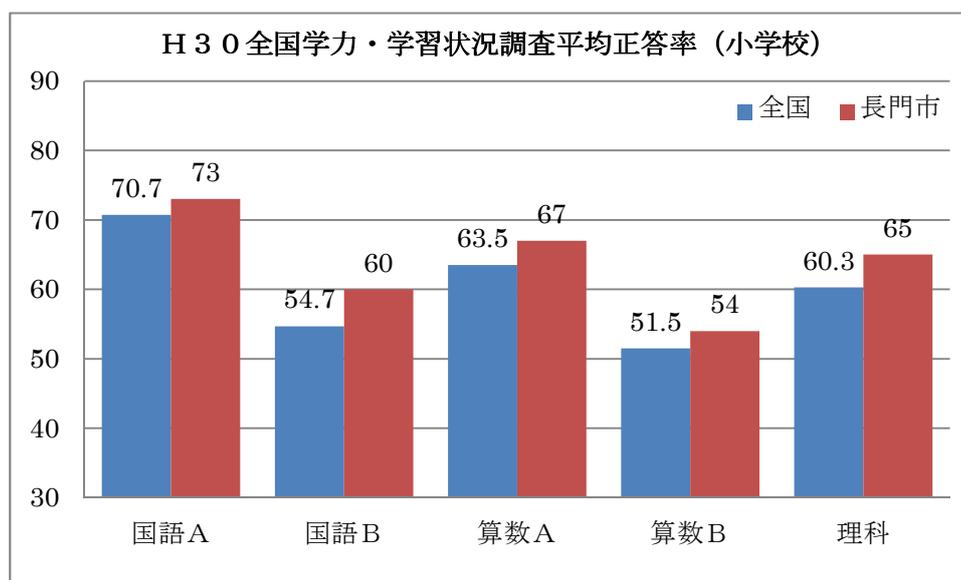
長門市教育委員会学校教育課

学力調査結果についての棒グラフの見方

- 調査対象は、小学6年生と中学3年生で、平成30年4月に実施。
- 学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。

1 学力検査の結果（○：比較的良好にできている点 ●：課題がある点）

（1）小学校



平成28年度から、国語A、国語B、算数A、算数B、すべての科目において、全国平均を大きく上回っている。理科においても、大きく全国平均を上回った。

【国語】

- 相手や目的に応じて、自分が伝えたいことについて、筋道を立てて話す。
- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う。
- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめる。

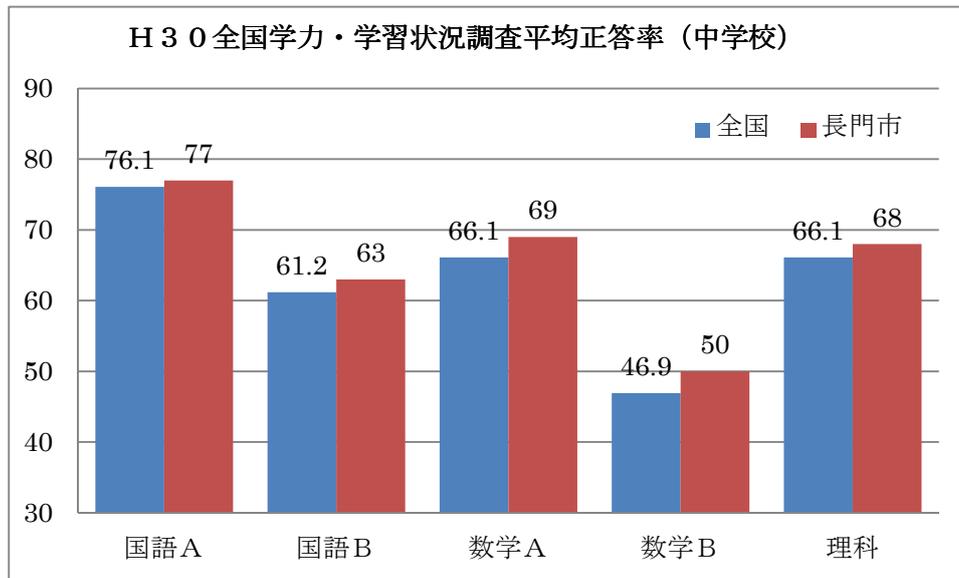
【算数】

- 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上にあらわす。
- 異種の2つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解する。
- 情報とグラフを関連づけ、総数や変化に着目して、記述する。
- 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断する。

【理科】

- 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解する。
- 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解する。
- より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する。
- 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用する。

(2) 中学校



3年前、小学校6年の時は、全国平均を国語A、算数A、算数Bで下回ったが、30年度の調査では、国語A、国語B、数学A、数学B、理科のすべての教科で全国平均を上回った。特に数学Bにおいては、全国平均を3.1ポイント上回った。

【国語】

- 文脈に即して漢字を正しく読む。
- 慣用句の意味を理解する。
- 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する。
- 目的に応じて、文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。
- 目的に応じて、文章を読み、内容を整理して書く。

【数学】

- 単項式どうしの除法の計算をする。

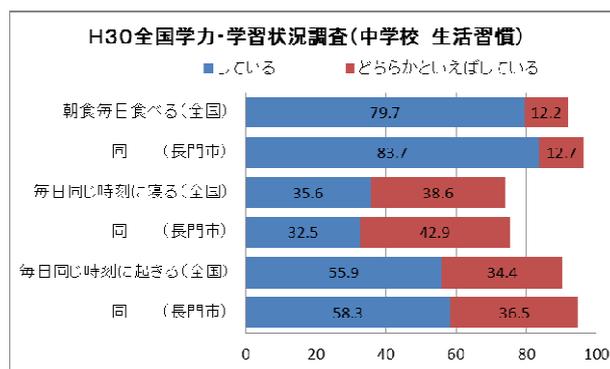
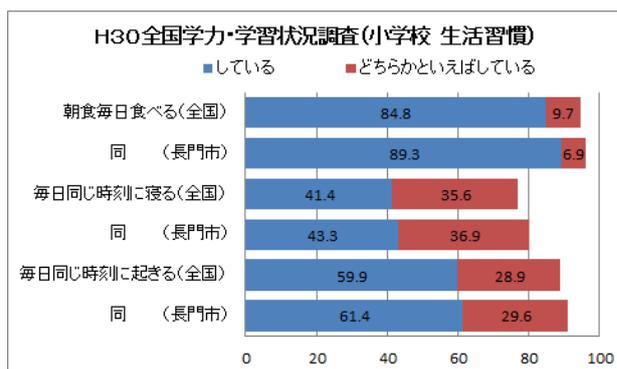
- 文字式に数を代入して式の値を求める。
- 連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標表面上の2直線の交点であることを理解している。
- 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。
- 与えられた情報から、必要な情報を選択し、的確に処理する。

【理科】

- 豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘する。
- 植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている。
- 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する。

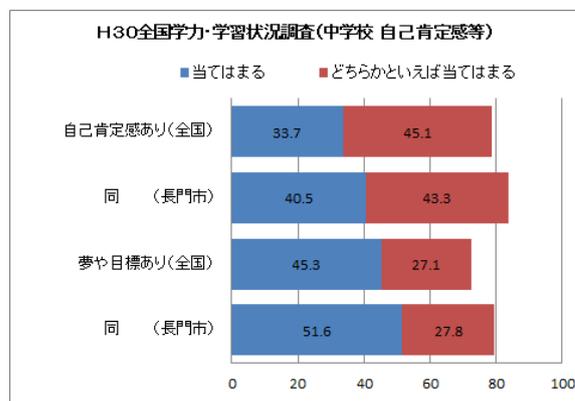
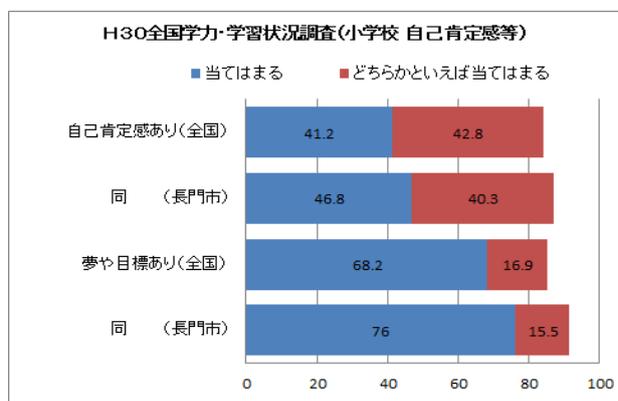
2 児童・生徒質問紙集計結果 (○：良い点 ●：課題がある点 ◇：その他)

(1) 生活習慣



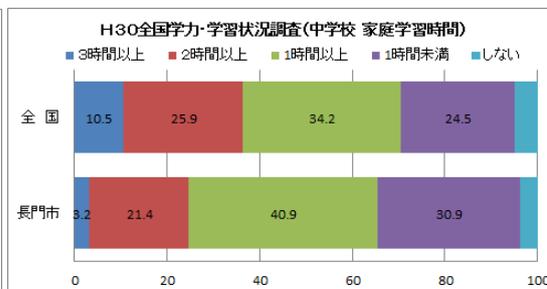
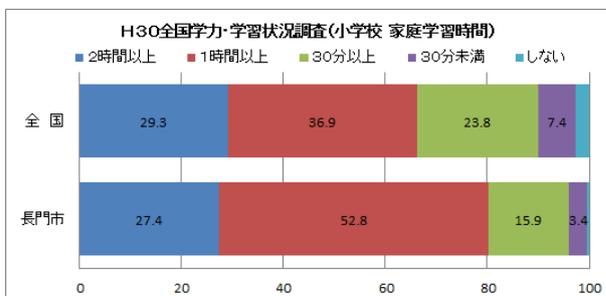
- 朝食を毎日しっかりと食べている児童、生徒が多い。
- 定刻に起床する児童、生徒の割合が高い。
- 定刻に就寝する児童、生徒の割合が少ない。

(2) 意識や経験

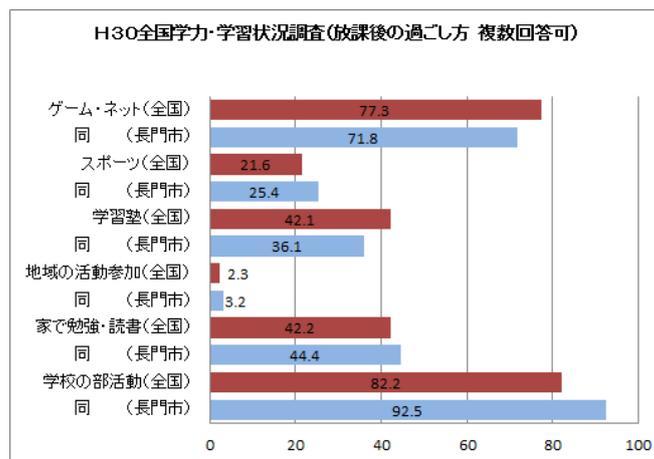
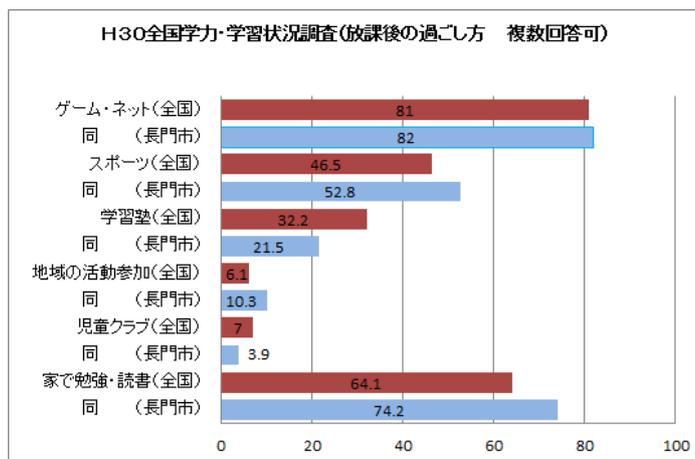


- 自分にはよいところがあると思う児童・生徒が多い。
- 中学校において、夢や目標をもつ生徒がやや少ない。

(3) 学習習慣

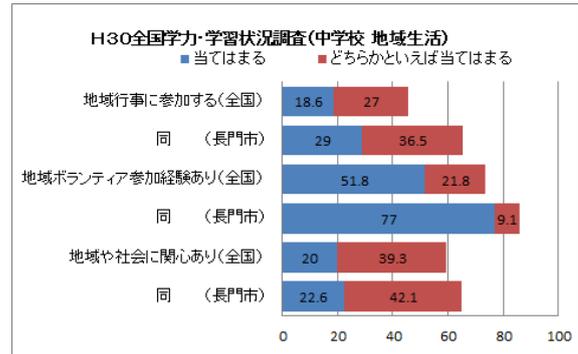
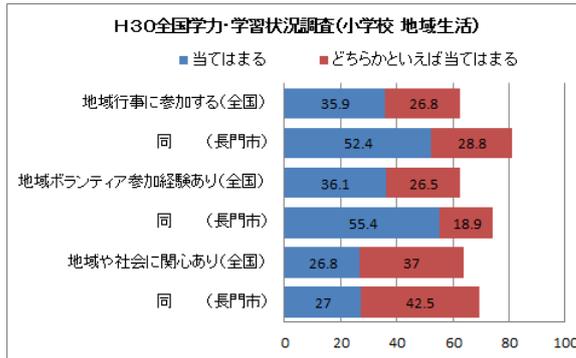


- 小学校では、1時間以上（2時間以上を含む）、家庭学習を行っている児童の割合が80%以上である。
- 中学校では、2時間以上（3時間以上を含む）家庭学習をしている生徒の割合がやや少ない。



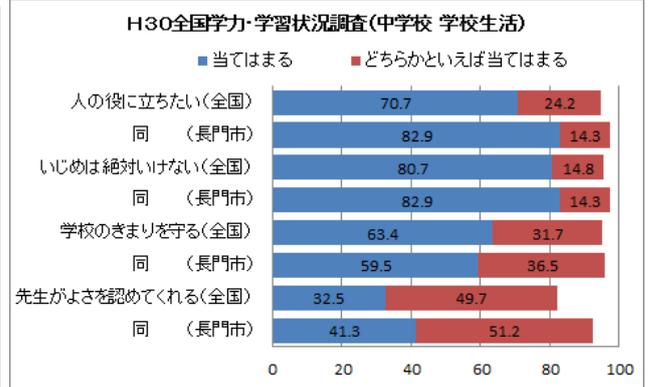
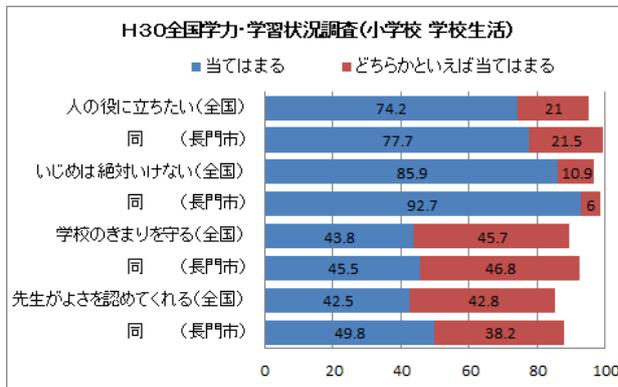
- 中学校では、放課後に部活動を行っている生徒の割合は92.5%であり、全国に比べて高い。
- 小学校では、放課後に地域の活動に参加している児童の割合が全国と比べて高い。
- 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている児童・生徒の割合が高い。

(4) 地域生活



- 地域行事に、積極的に参加する児童、生徒がかなり多い。
- 地域ボランティアに参加したことがある児童、生徒がかなり多い。

(5) 学校生活



- 人の役に立ちたいと思っている児童、生徒が多い。
- 先生が自分のよさを認めてくれていると感じる児童、生徒が多い。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思える児童、生徒の割合は高いが、100%ではない。

3 今年度の取組

(1) 学校での組織的な取組の推進

- 学校全体で成果と課題を共有し、管理職や学力担当を中心に組織的な動きをつくり、全校体制で学力向上を推進する。
- 年間2回実施する、市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、全小・中学校での取組を検討し、各校のプランの見直し・改善を図る。
- みすゞ学園ごとに1名ほど先進校視察を行い、成果を生かした授業を行う。その成果を、市教委主催の研修会で共有し、市内の学校に実践を広めるとともに、小・中が連携しながら学力向上を推進する。
- 学校運営協議会で自校の結果の概要と今後の取組について確実に説明し、改善策を検討するとともに、家庭や地域との連携を図り、地域とともに学力向上に

取り組む。

○個人票を保護者に配布し、家庭との連携を図る。

(2) 指導方法の工夫改善

○各校に長門市がめざす「わかる・できる」授業像を明確に示し、校長会や研修会を通じて市内全教員に共通理解を図る。

○指導主事の地区担当や外部講師による効果的な指導方法の普及を図る。

○各校で実施した全国学力・学習状況調査の誤答分析を基に、国語科や算数科、数学科、理科で「理由やわけを書く」指導の充実に重点を置き、指導方法の工夫改善を推進する。

(3) 学習環境の整備

○学力向上推進リーダー、英語教育推進教員、小学校英語専科教員等が中心となり、小学校と中学校が連携した研修や交流を推進する。

○子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導体制づくりの推進や幼保・小・中の連携を充実させるためのカリキュラムづくりを推進する。

(4) 学習習慣の確立

○家庭との連携を推進し、「家庭学習」を充実させるための手だてを各校で検討し学習習慣の定着を図る。

○県が作成した問題を活用したり、良問に数多く取り組ませたりする等、家庭学習の充実を図る。

○長門市全小・中学校での、28年度まで実施した生活習慣マネジメントサポート事業の取組を生かし、生活習慣の改善を図り、自主的な学習への取組を図る。

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

・ [国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」](#)

・ [山口県教育委員会 義務教育課 「全国学力・学習状況調査」](#)